



## 勝俣隆先生

### 略歴・研究業績

#### 研究の概要

研究は上代文学と中世文学を中心として、中古文学、さらには、現代文学までに及ぶ。中でも、上代では記紀神話の解釈、中世では、中世小説（御伽草子・室町物語）の本文と挿絵の関係についての考察が骨格となる。前者では、日本の神話の中に星座を見いだし、日本神話の中心的部分が星辰神話であることを論じた点が功績と言える。今まで日本人は星に関心を持たず、神話にも、星の神話は存在しないとされてきたが、天孫降臨神話と天石屋戸神話は星座神話として理解できることを発見した。具体的には、天の八衢は昴（プレイアデス星団）、猿田毘古神（猿田彦大神）は畢星（ヒアデス星団）、天宇受売命はオリオン座に相当することを指摘し、天宇受売命が両方の神話で活躍するのも、天宇受売命をオリオン座と解釈することで理解できるとした。これは古事記学会で発表したものが基であるが、東亜天文学会・日本天文学会の機関誌で紹介され、朝日新聞・毎日新聞などのマスコミ、天文学関係の雑誌などでも紹介された。講演会も半数は日本神話に関するものであり、学術的価値、

発想の新しさ、社会的影響力を考えても、全業績の中で、最も意義ある論であると考ええる。

星に関することでは、七夕伝説に関する考察も大きな位置を占めている。もともと中世小説に『七夕』という作品があり、そこに金星・帚星・昴などが登場し、星と文学の関係を考察できた。さらに、古事記学会では、七夕伝説について発表したのが、そこでは、七夕がなぜ七月七日に行われるのかについて、その日が異郷と現世が結ばれる特別な日であるため、天上世界の織女と人間世界の牽牛が出会える日であったという見解を提示できた。七夕伝説についても、講演の他、テレビやラジオにも出演し、拙案を紹介できた。

一方、中世小説では、海外も含めて、多くの伝本を調査し、紹介できたことも成果の一つである。中でも、オックスフォード大学が所蔵していた『ひな鶴』という作品は今までその存在が知られていなかったものなので、新たな物語を発見したことになる。また、中世小説の本文と挿絵の関係について考察し、十三の法則を打ち立て、そのダイナミックな関係を具体的に指摘したことも成果といえる。

また、古典文学の三大謎といわれた一つである徒然草の「むまのきつりやうきつにのをかなかくほれいりくれんとう」の謎について、いろは歌を利用した謎であることを突き止め、「1につき」という解答を導いた点も、700年間解法が不明であった謎を読み解いた点において大きな功績を成し遂げたと言える。

さらに、『枕草子』の冒頭部に着目し、清少納言が素材として植物という動きのないものを排除し、動物・天体・気象などの動きのあるもののみを描き、活き活きとした描写を行おうとしたことを、

具体的に指摘した。これは清少納言がいかに優れた知性・能力と文章力を持っていたのかを改めて明らかにした点で、清少納言を文学者として正当に評価できたと考える。

他にも、『篁物語』において、従来の解釈で不明な点、あるいは、疑問な点について新たな解釈をいくつか提示できた点で意義が在ると考える。

そのほか、長崎が描かれた古典文学や長崎出身の青来有一氏などの小説家についても、できる範囲で研究を行ってきた。しかしながら、法人化後、大学が多忙を極め、予定した研究の半分ほどしかできなかったため、退職後は、残された研究に邁進したいと考えている。

#### 履歴

昭和二七年(一九五二年) 神奈川県箱根に生まれる

#### 学歴

昭和四五年(一九七〇年)

神奈川県立小田原高校卒業後、静岡大学人文学部、京都大学大学院文学研究科修士課程、同博士後期課程で国語国文学を専攻。平成二一年(二〇〇九年)に博士(文学) 京都大学。

#### 職歴

昭和五五年(一九八〇年)に国立新居浜工業高等専門学校一般科目専任講師(国語担当)、昭和六〇年(一九八五年) 同上助教を経て、昭和六三年(一九八八年)に長崎大学教育学部助教授(国文学

担当)に転任。平成一二年(二〇〇〇年)に同上教授に昇任し現任に至る。

#### 研究業績

##### 著書・報告書

- 1 中世小説と散逸物語の関連についての研究『風葉和歌集』所載の物語を中心として 単著 平成一〇年三月 勝俣 隆、平成一〇年度科学研究費補助金(C)(2) 研究成果報告書 一〇四頁
- 2 古事記の神々 上(古事記研究大系) 共著 平成一〇年六月 高科書店 古事記学会 全三四頁中、二二二―二三三の一頁分を担当
- 3 絵巻・室町物語と説話(説話論集 第八巻) 共著 平成一〇年八月 清文堂 全四一八頁中、二五一―二九三の四三頁分を担当
- 4 星座で読み解く日本神話 単著 平成一二年六月 大修館書店 一―二九四の全頁
- 5 中世小説の挿絵と本文の関連についての研究 単著 平成一四年三月 勝俣 隆、平成一〇年度一三三年度科学研究費補助金(C)(2) 研究成果報告書 一―一六二頁
- 6 お伽草子事典 共著 平成一四年九月 東京堂出版 全五二九頁のうち、二一項目約三〇頁分を担当
- 7 古事記論集 共著 平成一五年五月 おうふう 古事記学会 全三四頁のうち、二〇―二九、一八七―二〇五の計二九頁分

- 8 辞書遊歩―長崎で辞書を読む― 共著 平成一六年三月 九州  
大学出版会 全一九〇頁のうち、二三―三六の十四頁分を担当
- 9 東歌・防人歌 後期万葉の男性歌人たち(セミナー万葉の歌人と作品 第十一卷) 共著 平成一七年五月 和泉書院、全三二  
四頁のうち、一〇三―一一の九頁分を担当
- 10 万葉秀歌抄(セミナー 万葉の歌人と作品 第十二卷) 共著  
平成一七年十一月 和泉書院、全三八三頁のうち、二九九、三  
二一の二頁分を担当(巻一四・三四八四と巻一六・三八一六を  
担当)
- 11 中世小説の発生と展開、影響についての研究―挿絵と本文の両  
面― 単著 平成二〇年三月 勝俣 隆、平成一六年度(一九  
年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 一  
一八六頁
- 12 神話・象徴・言語 共著 平成二〇年三月 篠田知和基、楽瑯  
書院 九五八頁
- 13 お伽草子 百花繚乱 共著 平成二〇年一月 徳田和夫 笠  
間書院 六八二頁
- 14 天空の神話―風と鳥と星 共著 平成二一年三月 篠田知和  
基、楽瑯書院 五二六頁 六九二頁
- 15 神話・象徴・言語・2 共著 平成二一年一二月 篠田知和  
基、楽瑯書院 五二六頁 四一六頁
- 16 異郷訪問譚・来訪譚の研究 上代日本文学編 単著 平成二一  
年一二月 勝俣 隆、和泉書院 五六五頁
- 17 水と火の神話…水中の火 共著 平成二二年三月 篠田知和
- 基、楽瑯書院 五二六頁 四二〇頁
- 18 神話・象徴・言語・3 共著 平成二二年一二月 篠田知和  
基、楽瑯書院 五二六頁
- 19 そうだったのか! すっきりわかる日本の神話 共著 平成二三  
年一月 「歴史読本」編集部、新人物往来社 二二四頁
- 20 愛の神話学 共著 平成二三年三月 篠田知和基、楽瑯書院  
五二六頁 五二六頁
- 21 神話・象徴・図像1 共著 平成二三年一二月 篠田知和基、  
楽瑯書院
- 22 古典籍研究ガイドダンス 王朝文学を読むために 共著 平成二  
四年六月 人間文化研究機構国文学研究資料館、笠間書院 四  
四五頁
- 23 異界と常世 共著 平成二四年一二月 篠田知和基、楽瑯書院  
五八〇頁
- 24 神話・象徴・図像2 共著 平成二四年一二月 篠田知和基、  
楽瑯書院 五二六頁
- 25 異界と常世 共著 平成二五年三月 篠田知和基、楽瑯書院  
五八〇頁
- 26 神話・象徴・図像3 共著 平成二五年一二月 篠田知和基、  
楽瑯書院 五二六頁 三七六頁
- 27 中世小説の生成発展過程の研究―伝本・説話・挿絵を中心に―  
単著 平成二六年三月 勝俣 隆、平成二一年度(二五年度科  
学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 三二六頁
- 28 神話・シルクロード 共著 平成二六年三月 篠田知和基、楽  
瑯書院 五三六頁

- 29 神話・象徴・儀礼 共著 平成二六年二月 篠田知和基、楽  
 瑯書院 五二六頁 三五八頁
- 30 神話・象徴・儀礼Ⅱ 共著 平成二七年二月 篠田知和基、  
 楽瑯書院 五二六頁 三七〇頁
- 31 神話・象徴・儀礼Ⅲ 共著 平成二八年二月 篠田知和基、  
 楽瑯書院 二六二頁 一〇二頁
- 32 上代日本の神話・伝説・万葉歌の解釈 単著 平成二九年三月  
 勝保 隆、おうふう 七三六頁
- 論文・翻刻・書評等
- 1 金星と国文学と人間と 単著 昭和五二年二月 静岡大学人文  
 学部『国文談話会報』二二号 七頁
- 2 金星と国文学と人間と(B)明けの明星 単著 昭和五三年一  
 〇月 静岡大学人文学部『国文談話会報』二四号 七頁
- 3 住吉三神の解釈について 単著 昭和五四年二月 静岡大学  
 人文学部『国文談話会報』二五号 一一―一二頁
- 4 中世小説『あめわかみこ』の本文に関する一考察―慶応大学蔵  
 『雨わかみこ』について― 単著 昭和五五年二月 静岡大  
 学人文学部『国文談話会報』二六号 九―一七頁
- 5 国立国会図書館蔵『あめ若物かたり』の翻刻並びに解題 単  
 著 昭和五六年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学  
 編一七巻 八―二二頁
- 6 高松宮御所蔵『七夕の草紙』の翻刻及び解題 単著 昭和五七  
 年一月 新居浜工業高等専門学校紀要人文科学編一八巻 九―  
 二四頁
- 7 火中出産譚の神話的解釈について 単著 昭和五七年二月 静  
 岡大学人文学部『国文談話会報』二七号 一―七頁
- 8 慶応義塾図書館蔵『雨若御子』の翻刻及び解題 単著 昭和五  
 八年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編一九巻  
 一―二六頁
- 9 大樹伝説から見た「比那」の語義 単著 昭和五八年二月 静  
 岡大学人文学部『国文談話会報』二八号 一―八頁
- 10 木国と根国―大穴牟遲神の根国訪問譚に関して― 単著 昭  
 和五八年七月 愛媛大学法文学部『愛文』一九号 一―六頁
- 11 大阪府立中之島図書館蔵『七夕』の翻刻及び解題 単著 昭和  
 五九年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二〇巻  
 一―一五頁
- 12 「自三木保漏逃」の二解釈―大穴牟遲神の根国訪問譚に関し  
 て― 単著 昭和五九年一月 古事記学会『古事記年報』二六  
 号 八五―九九頁
- 13 大樹伝説に見られる宇宙樹的要素と生命の水―雄略記百枝槻の  
 条を中心として― 単著 昭和五九年二月 静岡大学人文学部  
 『静大国文』二九号 一―一三頁
- 14 「波の穂を跳む」と「粟莖に弾かれて」の意図するもの―常世  
 国への渡航方法に関して― 単著 昭和五九年七月 愛媛大学  
 法文学部『愛文』二〇号 一―五頁
- 15 国立国会図書館蔵『七夕の由来』の翻刻及び解題 単著 昭和  
 六〇年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二一巻  
 一号 一―二六頁
- 16 天の八衢について 単著 昭和六〇年一月 古事記学会『古事

- 記年報』二七号 一九一三二頁
- 17 浦島伝説の一要素―丹後国風土記逸文を中心に― 単著 昭和六〇年二月 京都大学文学部国文学研究室『国語国文』五四卷二号 一九一三二頁
- 18 万葉集卷三・四二〇番歌の解釈への一方法―「天地乃至流左右二」から見た古代日本人の天空観を通して― 単著 昭和六〇年三月 静岡大学人文学部『静大国文』三〇号 一一一〇頁
- 19 大洲市立図書館蔵『あめ若さうし』の翻刻及び解題 単著 昭和六〇年三月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二一巻二号 一一一五頁
- 20 中世小説「あめわかみこ」における挿絵と本文の齟齬について―姫君の琴の演奏と天稚御子の降臨― 単著 昭和六〇年七月 愛媛大学法文学部『愛文』二一号 一一七頁
- 21 国立国会図書館蔵『たなはた』の翻刻及び解題 単著 昭和六一年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二二巻一号 一一一五頁
- 22 猿田毘古神の解釈について 単著 昭和六一年一月 古事記学会『古事記年報』二八号 一一四―一三五頁
- 23 京都大学文学部蔵「あめわか物語」の翻刻及び解題 単著 昭和六一年三月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二二巻二号 一一一七頁
- 24 『竹取物語』の「蓬莱の玉の枝」とタヂマモリ伝承のトキジクノカクノコノミ 単著 昭和六一年四月 静岡大学人文学部「静大国文」三一号 一一八頁
- 25 京都大学文学部蔵「たなばた」の翻刻及び解題 単著 昭和六二年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二三号 一一一五頁
- 26 中世小説「あめわかみこ」の七夕系本文二系統の新旧に関する一考察―絵と本文の齟齬を通して― 単著 昭和六二年九月 愛媛大学法文学部『愛文』二三号 三二―三八頁
- 27 植松茂氏蔵「時雨」の翻刻 単著 昭和六三年一月 新居浜工業高等専門学校紀要 人文科学編二四号 一一二〇頁
- 28 中世小説「あめわかみこ」と散逸物語「夢ゆゑ物思ふ」 単著 昭和六三年一月 長崎大学国語国文学会「国語と教育」一三号 一一一二頁
- 29 日本神話の星(上) 単著 平成元年二月 河出書房新社 季刊天文誌「星の手帖」九四―九六頁
- 30 東北大学附属図書館蔵「あめわかみこ」の翻刻及び解題 単著 平成元年三月 長崎大学教育学部人文科学部研究報告三八卷三一―三二頁
- 31 万葉集卷九、上総の末珠名娘子を詠む一首における「鑑」をめぐる 単著 平成元年三月 静岡大学人文学部「静大国文」三四号 七八―九二頁
- 32 日本神話の星(下) 単著 平成元年五月 河出書房新社 季刊天文誌「星の手帖」八二―八六頁
- 33 「いぶせし」語義考 単著 平成元年六月 長崎大学教育学部人文科学部研究報告三九号 三一―三五頁
- 34 枕草子冒頭部の構造について 単著 平成元年一二月 長崎大学国語国文学会「国語と教育」一四号 四一―五〇頁
- 35 旅人たちの風景「古事記」「日本書紀」上・中・下、「肥前国風

- 土記」上・中・下、「万葉集」四・五、「シーボルト」一から五  
項目分担 平成二年一月～六月 長崎新聞 年間企画「旅人た  
ちの風景」の分担執筆
- 36 枕草子二三七段の解釈について―「つきづきし」の(美)意識  
を通して 単著 平成二年三月 長崎大学教育学部人文科学研  
究報告四〇号 一―一二頁
- 37 常世国の存在位置と不老不死の關係についての一考察 単著  
平成二年六月 長崎大学教育学部人文科学研究报告四一号 一  
―一三頁
- 38 箱根宮城野地区に伝わる俚謡について 単著 平成三年三月  
長崎大学教育学部人文科学研究报告四二号 一―一五頁
- 39 箱根宮城野地区に伝わる俚謡・俗信・俚謡について 単著 平  
成三年六月 長崎大学教育学部人文科学研究报告四三号 一三  
四―一四三頁
- 40 『徒然草』「むまのきつ云々」の謎について 単著 平成三年  
一月 京都大学文学部国文学研究室『国語国文』六〇巻一一  
号 一九―三四頁
- 41 御伽草子『酒吞童子』の一挿絵と本文について―酒吞童子登場  
の場面の変遷をめぐって― 単著 平成四年一月 愛媛大学法  
文学部『愛文』二七号 二九―三九頁
- 42 天津甕星の解釈について 単著 平成四年三月 長崎大学教育  
学部人文科学研究報告四四号 一―一頁
- 43 御伽草子『酒吞童子』の一場面における二系統成立に関する考  
察―挿絵と本文を通して― 単著 平成四年三月 静岡大学人  
文学部『静大國文』三六号 四八―五九頁
- 44 大樹伝説と琴 単著 平成四年六月 長崎大学教育学部人文科  
学研究報告四五号 一―一〇頁
- 45 大穴牟遲神の根国訪問譚の本文について 単著 平成四年一  
月 長崎大学古典文学研究会「古典文学研究」創刊号 一―一  
〇頁
- 46 万葉集卷三・二七〇番歌の解釈―「山下」についての考察を中  
心に― 単著 平成五年二月 長崎大学国語国文学会「国語と  
教育」一七号 五一―五八頁
- 47 万葉集に描かれた金星についての考察 単著 平成五年三月  
長崎大学教育学部人文科学研究报告四六号 一七―三一頁
- 48 肥前国風土記彼杵郡落石岑の記述について 単著 平成五年六  
月 風土記研究会「風土記研究」一六号 六五―七六頁
- 49 万葉集卷三・三五八番歌の解釈―「粟島」と「羨しき小舟」の  
視点から― 単著 平成五年六月 長崎大学教育学部人文科学  
研究报告四七号 一七―二九頁
- 50 浦島伝説に於ける玉匣(玉手箱)について 単著 平成五年七  
月 長崎大学古典文学研究会「古典文学研究」二号 一―一〇  
頁
- 51 〈書評〉児玉正幸『武門の倫理 悲しき「侍」から、誇り高き  
「武家」へ』(行路社、1993) 単著 平成五年 南日本  
新聞 一九九三年
- 52 長崎大学附属図書館蔵古典籍蔵書目録【五十音索引】 共著 若  
木太一、不破浩子氏と) 平成六年一月 長崎大学教養部紀要  
人文科学編 五一―七二頁
- 53 日本書記の猿田彦神の記述に関する一考察 単著 平成六年三



- 月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第四八号 一一一五頁
- 54 マルチ・メディア時代の読み書き概念の揺らぎ―将来の図書館・研究室とマルチ・メディア携帯端末の関連をめぐって―  
単著 平成六年三月 長崎大学教育実践研究指導センター年報 第六号 二七一―三二二頁
- 55 枕草子の美意識 ―清女の二元対立的思考とつきづきしの美意識― 単著 平成六年六月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第四九号 三九一―五四頁
- 56 古事記における綿津見宮の存在位置について 単著 平成六年六月 長崎大学古典文学研究会『古典文学研究』 第三号 一一三頁
- 57 万葉集における「鶴」の歌をめぐって 単著 平成七年二月 長崎大学国語国文学会『国語と教育』 第一九号 七二―八五頁
- 58 方丈記の数値表現の一考察―家屋の大きさを中心に― 単著 平成七年三月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五〇号 二九―三九頁
- 59 情報時代における国語（日本語）表記のあり方について 単著 平成七年三月 長崎大学教育実践研究指導センター年報 第七号 一五一―二二二頁
- 60 長崎大学附属図書館経済学部分館武藤文庫蔵文学・語学関係貴重資料 共著 平成七年三月 長崎大学所蔵貴重資料 第一号 二一八―二五九頁
- 61 肥前国風土記藤津の郡の記述について 単著 平成七年四月
- 62 長崎大学古典文学研究会『古典文学研究』第四号 一五―二三頁
- 62 長崎大学附属図書館経済学部分館武藤文庫蔵『独楽雑歌笑草』の翻刻と解題（上） 単著 平成七年六月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五一号 一七一―二七頁
- 63 日本神話の星と宇宙観（1） 単著 平成七年一月 日本天文学会『天文月報』第八八巻一―四七二―四七七頁
- 64 日本神話の星と宇宙観（2） 単著 平成七年二月 日本天文学会『天文月報』第八八巻二―五二―五二―五二―五二―五二頁
- 65 記紀神話の宇宙観 単著 平成八年一月 新人物往来社『別冊歴史読本』 三三三号 一三四―一四三頁
- 66 日本神話の星と宇宙観（3） 単著 平成八年一月 日本天文学会『天文月報』第八九巻一―二二―二二―二二―二二―二二頁
- 67 荒袴と白袴―上代文学研究の一方法について― 単著 平成八年二月 長崎大学国語国文学会『国語と教育』 第二〇号 三一―四五頁
- 68 長崎大学附属図書館経済学部分館武藤分館蔵『独楽雑歌笑草』の翻刻と解題（中） 単著 平成八年三月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五二号 三五―四二頁
- 69 長崎大学附属図書館経済学部分館武藤分館武藤文庫蔵文学・語学関係資料 共著 平成八年三月 長崎大学附属図書館『長崎大学所蔵貴重資料』第二号 一一七―二一六頁
- 70 情報化時代における使用言語としての国語（日本語）と英語 単著 平成八年四月 長崎大学実践研究指導センター年報 第八号 一一―一六頁

- 71 中世小説『あめわかみこ』天稚系研究の現在 単著 平成八年六月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五三号 一一一六頁
- 72 長崎大学に於ける授業改善の一つの試み 単著 平成八年六月 平成七年度長崎大学自己評価報告書 第二冊 よりよい授業への試み―教育方法改善研究報告書 五―一一頁
- 73 浦島伝説の淵源 単著 平成八年一〇月 東京大学国文研究室『国語と国文学』七三卷一〇号 一七一―三二頁
- 74 万葉集卷一・六四番歌の解釈―「鴨の羽がひに霜ふりて」を中心に― 単著 平成八年一二月 長崎大学古典文学研究会『古典文学研究』第五号 一一―四頁
- 75 伊邪那岐命の禊祓の段における時量師神の解釈について 単著 平成九年一月 古事記学会『古事記年報』第三九号 七一―九八頁
- 76 中世小説『七夕』と先行文献の関係について 単著 平成九年三月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五四号 一六一―三一頁
- 77 情報化社会における教育のあり方について 単著 平成九年三月 教育実践研究指導センター年報 第九号 二二―三二頁
- 78 長崎大学経済学部分館・語学関係貴重資料 共著 平成九年三月 長崎大学附属図書館『長崎大学所蔵貴重資料』第三号 一六一―三一頁
- 79 「天稚御子像」の変遷に関する一考察―「天若日子」から「天稚御子」へ― 単著 平成九年六月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五五号 一一―一七頁
- 80 中世小説『扇ながし』と散逸物語『扇流し』 単著 平成九年一二月 長崎大学国語国文学会『国語と教育』第二二号 一六一―三一頁
- 81 万葉集の十二面 風月 単著 平成一〇年二月 朝日新聞社『アエラ・ムック 万葉集がわかる』 五四―五七頁
- 82 中世小説『岩屋物語』と舞の本『新曲』―挿絵の流用について― 単著 平成一〇年二月 長崎大学古典文学研究会『古典文学研究』第六号 三三―四〇頁
- 83 永青文庫蔵『いはや物語』の挿絵と本文について 単著 平成一〇年三月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五六号 一一―一五頁
- 84 幕末・明治期日本古写真コレクション目録第一集 共著 平成一〇年三月 長崎大学附属図書館
- 85 万葉集に描かれた星―紙上連載シンポジウム― 単著 平成一〇年四月 東亜天文学会『天界』第八七五号 七一―一頁(一六七―一七一頁)
- 86 少名毘古那神についての一考察 単著 平成一〇年六月 『古事記の神々 上』 古事記研究大系 二二三―二三三頁
- 87 中世小説に於ける挿絵と本文の関係について 単著 平成一〇年六月 長崎大学教育学部人文科学研究報告 第五七号 一七一―三一頁
- 88 平成九年度国語国文学会の展望(1) 上代(神話) 単著 平成一〇年九月 全国大学国語国文学会『文学・語学』第一六〇号 二―三頁
- 89 室町物語に於ける挿絵と本文の関係について 単著 平成一〇



- 年八月 説話と説話文学の会『説話論集』第八集 二五一―二九三頁
- 90 日本神話の宇宙観「日本神話の星と星座」(連載第一回) 単著 平成一〇年十一月 勉誠出版『創造のアジア』創刊号 一〇―一五頁
- 91 天の御柱廻りと国生み神話「日本神話の星と星座」第二回(第一回「日本神話の宇宙観」も再掲) 単著 平成一一年三月 勉誠出版『アジア遊学』第二号 一四八―一五四頁
- 92 中世の謎に関する若干の考察 単著 平成一一年三月 長崎大学古典文学研究会『古典文学研究』第七号 五―一頁
- 93 英・米・アイルランドの大学・図書館の所蔵する中世小説について(上) 単著 平成一一年三月 長崎大学教育学部人文科学研究所報告五八号 五一―六五頁
- 94 『篁物語』に関する若干の考察 単著 平成一一年六月 長崎大学教育学部紀要 人文科学編 第五九号 一―一六頁
- 95 天津甕星と天香香背男「日本神話の星と星座」第三回 単著 平成一一年六月 勉誠出版『アジア遊学』第五号 一〇―一六頁
- 96 天の八衡と天の石屋戸「日本神話の星と星座」第四回 単著 平成一一年七月 勉誠出版『アジア遊学』第六号 一七二―一七九頁
- 97 猿田毘古神と天孫降臨神話「日本神話の星と星座」第五回 単著 平成一一年八月 勉誠出版『アジア遊学』第七号 一五四―一六一頁
- 98 天上画廊としての日本神話「日本神話の星と星座」第六回 単著 平成一一年九月 勉誠出版『アジア遊学』第八号 九八―一〇五頁
- 99 日本書紀に於ける火の神話についての一考察―「此、草木、石砂の自づからに火を含む縁なり」の解釈を中心に― 単著 平成一二年二月 長崎大学国語国文学会『国語と教育』二四号 一三三―一三〇頁
- 100 四季の描写と楽園象徴―宇津保物語からお伽草子まで― 単著 平成一二年三月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六〇号 一―一六頁
- 101 懐風藻に描かれた星 単著 平成一二年三月 懐風藻研究 六号 一―一五頁
- 102 書評「江口冽著『古代天皇と陰陽寮の思想 持統天皇歌の思想』」 単著 平成一二年四月 『短歌往来』(ながらみ書房)
- 103 オックスフォード大学ボドリアン図書館附属日本研究図書館所蔵『ひなつる』の翻刻・注釈並びに解題 単著 平成一二年六月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六一号 一―一五頁
- 104 何故、畢星を猿田毘古神とみなすか 単著 平成一二年三月 猿田彦大神フォーラム年報三号 四八―四九頁
- 105 うさぎとかぐや姫 単著 平成一二年一〇月 ダジアン三七号「月」(コスモ石油)
- 106 羽衣伝説と白鳥の説話―丹後国風土記逸文―比治の真名井・奈具の社」の条を中心に― 単著 平成一二年十一月 国語と教育(長崎大学国語国文学会) 二五号 六七―七四頁
- 107 「月の船」と「星の林」―万葉集卷七・一〇六八番歌の解釈を中心に― 単著 平成一二年一二月 古典文学研究(長崎大学

- 108 長崎大学教育学部紀要 人文科学 第八十三号(二〇一七)  
 古典文学研究会) 八号 一―八頁  
 枕草子の星(連載「日本古典文学の星」第一回) 単著 平成  
 一三年一月 アジア遊学(勉誠出版)二三号 一〇四―一一二  
 頁
- 109 風土記に描かれた星(連載「日本古典文学の星」第二回) 単  
 著 平成一三年二月 アジア遊学(勉誠出版)二四号 一五四  
 一六一頁
- 110 オックスフォード大学ボドリアン図書館附属日本研究図書館所  
 蔵『酒吞童子』について―その絵から判読出来ること― 単著  
 平成一三年三月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六二  
 号 一―一五頁
- 111 今昔物語や梁塵秘抄等に描かれた星(連載「日本古典文学の星」  
 第三回) 単著 平成一三年四月 アジア遊学(勉誠出版)二  
 六号 一七五―一八二頁
- 112 「ささらの小野」考―万葉集卷三・四二〇番歌を中心に― 単  
 著 平成一三年六月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六  
 三号 一―一四頁
- 113 日本語の特性から見た点字表記の諸問題 単著 平成一三年九  
 月 教育実践研究指導センター紀要 三号 二〇―四〇頁
- 114 「手」に関する語彙の語源についての考察―「語頭」に手が付  
 く用例に関して― 単著 平成一三年一月 『語源研究』(日  
 本語語源研究会) 二〇周年記念特別号 一五一―一六〇頁
- 115 中世小説『七夕』の「姫君天上彷徨の場面」に於ける挿絵と本  
 文について 単著 平成一四年一月 古典文学研究(長崎大学  
 古典文学研究会) 九号 一―二二頁
- 116 中世小説における竜蛇の描写について 単著 平成一四年三月  
 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六四号 一―一五頁
- 117 英・米・アイルランドの大学・図書館の所蔵する中世小説につ  
 いて(中) 単著 平成一四年六月 長崎大学教育学部紀要―  
 人文科学― 六五号 一―一三頁
- 118 西鶴『武道伝来記』に於ける女性の生き方について 単著 平  
 成一四年二月 武道文化・倫理研究 一号 七二―八七頁
- 119 文武両道に生きた武士・薩摩守忠度―『平家物語』と『平家花  
 揃』に見る― 単著 平成一四年二月 武道文化・倫理研究  
 一号 八八―九九頁
- 120 英・米・アイルランドの大学・図書館の所蔵する中世小説につ  
 いて(下) 単著 平成一五年三月 長崎大学教育学部紀要―  
 人文科学― 六六号 一―一五頁
- 121 留学生の受入れに関する諸問題 ―日本語と日本文化教育を中  
 心に― 単著 平成一五年三月 教育実践研究指導センター紀  
 要 二二―四〇頁
- 122 ツクヨミノミコトと、その神話 単著 平成一五年五月 古事  
 記論集(おうふう) 二〇―二九頁
- 123 天の御柱の解釈について 単著 平成一五年五月 古事記論集  
 (おうふう) 一八七―二〇五頁
- 124 文学の危機と文学者の役割 単著 平成一五年六月 長崎大学  
 教育学部紀要―人文科学― 六七号 一―一五頁
- 125 『平家物語』に描かれたスポーツ的要素について 単著 平成  
 一五年二月 スポーツ文化・倫理研究 二号 四五―五六頁
- 126 刺国若比売と出雲の国土創生神話 単著 平成一六年一月 古

- 127 事記年報(古事記学会) 四六号 二〇〇一―二一六頁  
国文学研究、特にお伽草子(中世小説・室町物語)研究と電子化テキストの諸問題 単著 平成一六年三月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六八号 一―一六頁
- 128 異郷訪問譚の意味―大穴運神の根国訪問譚を中心に― 単著 平成一六年二月 國語と教育 二八号 八二―九三頁  
長崎大学附属図書館経済学部分館武藤文庫(旧長崎高等商業学校)蔵往來物の書誌 単著 平成一六年六月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 六九号 一―一五頁
- 130 仙台市博物館蔵『七夕』の翻刻並びに解題 単著 平成一七年三月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 七〇号 一―一六頁
- 131 遠江国・相模国の防人歌 単著 平成一七年五月 万葉の歌人と作品…セミナー 第一卷 一〇三―一一一頁
- 132 天狗の古典文学における画像上の変化に関する一考察―烏天狗から鼻高天狗へ― 単著 平成一七年六月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 七一号 一―一五頁
- 133 動物説話と異類物―『十二類絵巻』をめぐる(特集:面白(おもしろ)の室町文芸―雅俗の交流)―(『十二類絵』をめぐる) 単著 平成一七年一〇月 国文学解釈と教材の研究 五〇卷一〇号(通卷七二八号) 三四―四三頁
- 134 伊邪那岐命の黄泉国訪問譚の解釈―黄泉国の存在位置と黄泉津比良坂の位置関係を中心に― 単著 平成一八年三月 長崎大学教育学部紀要―人文科学― 七二号 一―一五頁
- 135 若松百人一首千代緑(表紙写真説明) 単著 平成一八年三月
- 136 長崎大学学報 五八二号 一頁  
国立台湾大学所蔵中世小説関係書籍書誌調査報告 単著 平成一八年三月 教育実践総合センター紀要(長崎大学教育学部) 五号 二〇一―二〇九頁
- 137 七夕伝説の起源と変化(その1) なぜ七月七日か 単著 平成一八年八月 天界(東亜天文学会) 八七卷八号 五〇四―五〇六頁
- 138 七夕伝説の起源と変化(その2) なぜ鶴の橋を渡るのか 単著 平成一八年九月 天界(東亜天文学会) 八七卷九号 五六五―五六七頁
- 139 お伽草子『七夕(天稚彦物語)』の諸問題 単著 平成一八年九月 奈良絵本・絵巻研究(奈良絵本・絵巻国際会議) 四号 一―一五頁
- 140 七夕伝説の起源と変化(その3) なぜ牽牛織女が天の河を挟んで向かい合うのか 単著 平成一八年一〇月 天界(東亜天文学会) 八七卷一〇号 六〇四―六〇六頁
- 141 七夕伝説の起源と変化(その4) 犬から牛へ……羽衣伝説との融合 単著 平成一八年一二月 天界(東亜天文学会) 八七卷一一号 六八六―六八八頁
- 142 月の不老不死と文学の関係についての一考察 単著 平成一八年一二月 國語と教育 三〇号 一一―二三頁
- 143 七夕伝説の起源と変化(その5) 七夕と乞巧奠、織女と瓜 単著 平成一八年一二月 天界(東亜天文学会) 八七卷一二号 七四九―七五一頁
- 144 七夕伝説の発生と変容 単著 平成一九年一月 古事記年報

- 145 (古事記学会) 四九号 一―二二頁  
イリノイ州立大学所蔵中世小説関係古典籍書誌調査報告 単著  
平成一九年三月 教育実践総合センター紀要 (長崎大学教育学部) 六号 二二五―二二六頁
- 146 公文教育研究会蔵「七夕」の翻刻並びに解題 単著 平成一九年三月 長崎大学教育学部紀要「人文科学」七三号 一―一六頁
- 147 研究手帳 一日の境目午前三時に出現する鬼と幽霊 単著 平成一九年五月 いずみ通信 三五号 三一―四頁
- 148 中世小説(お伽草子)『七夕(天稚彦物語)』の、蟻による米運搬の場面における挿絵と本文の関係に関する一考察 単著 平成一九年一月 国語と教育(長崎大学) 三二―三三―三三―四二頁
- 149 スウェーデン及びイタリアに於ける中世小説を中心とした古典籍の書誌調査報告並びに研究発表報告 単著 平成二〇年三月 教育実践研究指導センター紀要 七号 九七―一〇六頁
- 150 アメノウズメは、天石屋戸神話と天孫降臨神話で、なぜ同じ姿態で描かれるのか? 単著 平成二〇年三月 神話・象徴・言語(君島久子他、楽瑯書院)
- 151 〈翻〉公文教育研究会蔵『七夕物語』の翻刻並びに解題 単著 平成二〇年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 七四号 一―一六頁
- 152 説話文学とお伽草子―『天稚彦物語(あめわかひこものがたり)』をめくって 単著 平成二〇年一月 『お伽草子 百花繚乱』 一八一―一九六頁
- 153 天人のキャラクターを通してみた『あめわかみこ(七夕)』の構造 単著 平成二〇年一月 国語と教育(長崎大学) 三三―三三―三三―三三頁
- 154 日本の神話と「星座」 単著 平成二一年一月 歴史読本 四巻一号 二〇〇九年一月号 一四〇―一四五頁
- 155 特集・古典キャラクターの展開 美男美女の悲劇―御伽草子研究におけるキャラクター論 単著 平成二一年一月 アジア遊学 一一八号 八―一六頁
- 156 東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室蔵の中世小説を中心とした古典籍の書誌調査報告(その1) 単著 平成二一年三月 教育実践研究指導センター紀要 八号 二二九―二三九頁
- 157 小学校国語への古典文学導入の是非の問題 ―古典学習適齢期の観点から― 単著 平成二一年三月 言語と文化(鹿屋体育大学)、六号 六五―七〇頁
- 158 〈翻〉東京大学国文学研究室蔵『あた物語』の翻刻並びに解題 単著 平成二一年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 七五号 一―一〇頁
- 159 星座が先か、神話が先か? 単著 平成二一年三月 天空の神話―風と鳥と星(篠田知和基編、楽瑯書院)
- 160 古事記から「杵岐島」を読み解く 単著 平成二一年三月 旅する長崎学 一一号(長崎文献社)「海の道1 杵岐 邪馬台国への道 海上の王国 旅人の交差点」 三八―三九頁
- 161 火の神迦具土神から生まれた水の神閻添加美神・閻御津羽神 単著 平成二一年二月 神話・象徴・言語Ⅱ(篠田知和基)

- 編、楽瑯書院) 一五三―一六六頁
- 162 「不老不死」を月に願う 単著 平成二十一年九月 月刊MOK  
U 七四―八一頁
- 163 浦の島子か浦島の子か―漢文体と和文体の位相の視点から 単  
著 平成二十一年二月 国語と教育(長崎大学)三四号 五四  
―六一頁
- 164 「子の一つ木」の解釈と火の神話 単著 平成二十二年三月 水  
と火の神話:水中の火 三八五―三九八頁
- 165 昔話「桃太郎」の諸問題(「桃太郎」は「小さ子」か、桃と団  
子の意味等)に関する一考察 平成二十二年三月 言語と文化(鹿  
屋体育大学)、七号 九―一五頁
- 166 お伽草子渋川版の挿絵における「遠山」のコードに関する一考  
察 単著 平成二十二年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科  
学)七六号 一―一六頁
- 167 天の石屋戸―太陽・星々が描く秩序と破壊 単著 平成二十二年  
四月 歴史読本 五五巻四号(通巻八五〇号) 一〇八―一一  
三頁
- 168 「川の流れと流れてくるもの」についての文学的意味に関する  
一考察―男女を結び付けるもの、並びに異郷からの来訪の通路  
単著 平成二十二年一〇月 国語と教育(長崎大学)三五号  
一三―二三頁
- 169 瓜子姫と七夕伝説 単著 平成二十二年一二月 神話・象徴・言  
語・三(篠田知和基編、楽瑯書院) 九三―一〇頁
- 170 〈翻〉イリノイ州立大学附属図書館蔵『蓬菜の巻物』の翻刻並  
びに解題 単著 平成二十三年三月 長崎大学教育学部紀要(人  
文学部)七七号 一―一頁
- 171 文科学) 七七号 一―一頁
- 172 後の流布と継承 単著 平成二十三年三月 『基幹研究「王朝文  
学の流布と継承」』 三二―三三頁
- 173 七夕用語「梶の葉」の王朝文学における成立と、その後の流布  
と継承 単著 平成二十三年三月 調査研究報告三一号 一―二  
二頁
- 174 《あまのじゃく》(天の邪鬼)の生成過程に関する一考察―  
《あまのさぐめ》(天探女)から《あまんじゃく》へ― 単  
著 平成二十三年三月 言語と文化(鹿屋体育大学)、八号
- 175 天の石屋戸 単著 平成二十三年一月 そうだったのか!すっ  
きりわかる日本の神話 九〇―一〇五頁
- 176 〈書評〉鈴木健一編『鳥獣虫魚の文学史 獣の巻』『日本古典  
動物文学史』を叙述する意欲的な試み 単著 平成二十三年七月  
図書新聞 三〇二二号
- 177 〈シンポジウム〉海外に所蔵される奈良絵本・絵巻等を中心と  
した御伽草子関係資料について 単著 平成二十三年七月 説話  
文学研究 四六号 一二四―一三三頁
- 178 『古事記』『日本書紀』謎の神々 ツクヨミ アマテラスの弟  
ながら姿を見せない月の神 単著 平成二十三年一月 歴史読  
本 五六巻一―号(通巻八六九号) 九八―一〇三頁
- 179 日本の神話・伝説・昔話・御伽草子に通底する男女の出逢いと  
別れの基本原理 単著 平成二十三年三月 愛の神話学(篠田知  
和基編、楽瑯書院) 三九―五八頁
- 180 夏の夜空にキラリ輝く星座に秘められた伝説 単著 平成二三

- 180 年八月七日 長崎新聞「とっとって」  
羽衣伝説と昴星 単著 平成二三年一月二月 神話・象徴・画像  
一 (篠田知和基編、楽瑯書院)
- 181 〈書評〉『古事記以前』(工藤隆著) 単著 平成二四年一月 英語教育 八〇巻一―号、二〇一二年一月号 九六頁
- 182 大学の秋入学の問題点―「国際化」の用語を中心に― 単著  
平成二四年三月 言語と文化(鹿屋体育大学) 九号 二五―三四頁
- 183 アニメを利用した古典教育について 二〇一二年三月 単著  
平成二四年三月 教育実践総合センター紀要一―号 一二九―一三八頁
- 184 〈翻〉多久市郷土資料館蔵『小式部』の翻刻並びに解題 単著  
平成二四年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 七八号  
一―一五頁
- 185 作り物語から御伽草子へ―「狭衣物語」と「狭衣の草子」並び  
に天稚御子 単著 平成二四年六月 国文学研究資料館編『古  
典籍研究ガイドランス』一六六―一七五頁
- 186 学会報告「古事記」 単著 平成二四年七月 西日本新聞文化  
面(完成から一三〇〇年の節目に) 二〇一二年七月二日付け  
八面
- 187 青来有一氏と其の文学 単著 平成二四年一月二月 国語と教育  
(長崎大学) 三七号 四―一九頁
- 188 柘枝(つみのえ)伝説の原型を探る 単著 平成二四年一月  
神話・象徴・画像二(篠田知和基編、楽瑯書院)
- 189 宇比地遅神から伊邪那美神までの十神誕生の神話的解釈 単著
- 190 平成二五年三月 異界と常世(篠田知和基編、楽瑯書院)  
三四五―三五八頁  
於母陀流神(おもだるのかみ)と阿夜訶志古泥神(あやかしこ  
ねのかみ)の神話的存在意味について 単著 平成二五年三月  
言語と文化(鹿屋体育大学)、一〇号 一―六頁
- 191 フランス国立図書館所蔵中世小説関係古典籍書誌調査報告  
(上) 単著 平成二五年三月 教育実践総合センター紀要(長  
崎大学教育学部) 一二号 一七五―一八四頁
- 192 〈翻〉ライデン国立民族学博物館蔵『きぶねの本地』の翻刻並  
びに解題 共著(勝俣隆、原田真弓) 平成二五年三月 長崎  
大学教育学部紀要(人文科学) 七九号 一―一七頁
- 193 天之御中主神の神話的解釈について 単著 平成二五年一月二月  
神話・象徴・画像三 九―二六頁
- 194 説経節『さんせう大夫』『小栗判官』において、三男の三郎は  
何故悪役か 単著 平成二五年一月二月 国語と教育(長崎大  
学) 三八号 一八―二八頁
- 195 ソウル国立大学図書館所蔵中世小説関係古典籍書誌調査報告  
単著 平成二六年三月 教育実践総合センター紀要(長崎大  
教育学部) 一三三―一三三頁
- 196 〈翻〉ライデン民族学博物館蔵『たなばた』の翻刻並びに解題  
単著 平成二六年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 八  
〇号 一―一五頁
- 197 万葉集卷十一・二三三四番歌における「小簾之寸鶏吉仁」の解  
釈について 単著 平成二六年一月 国語と教育(長崎大  
学) 三九号 一七―二六頁



- 198 彗星の二つの役割……敵対者や古い支配者を除去する星と、新たな指導者を生み出す星 単著 平成二六年三月 神話のシルクロード(篠田知和基編、楽瑯書院) 一六五―一七八頁
- 199 「魔女の箒」と帚星(彗星) 単著 平成二六年三月 神話のシルクロード(篠田知和基編、楽瑯書院) 三七一―三八三頁
- 200 三輪山伝説の起源を探る 単著 平成二六年二月 神話・象徴・儀礼(篠田知和基編、楽瑯書院)
- 201 わが県の国語ソムリエ 長崎県 単著 平成二六年二月 明治図書『教育科学国語教育』七八〇号 一三一頁
- 202 古事記における穂穂手見命の高千穂宮在世五百八十年の意味 単著 平成二七年一二月 神話・象徴・儀礼Ⅱ
- 203 シンポジウムを通して考える小中の古典教育と連携の在り方 単著 平成二七年一二月 国語と教育(長崎大学) 四〇号 一四―二〇頁
- 204 カルタ(百人一首)を使用した新しい競技法の紹介 単著 平成二七年三月 教育実践総合センター紀要(長崎大学教育学部) 一四号 一四七―一五六頁
- 205 ライデン民族学博物館蔵『たなばた』のオランダ語訳 共著(勝俣隆、ルーク・ナス、タデウス・ホーツン) 平成二七年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 八一号 一五三―一七四頁
- 206 小説家青来有一の叙述の特色と、その背後にあるもの 単著 平成二八年三月 文体論研究六二号 九四―一二六頁
- 207 又吉直樹『火花』論 単著 平成二八年三月 教育実践総合センター紀要(長崎大学教育学部) 一五号 二二五―二三六頁
- 208 『篁物語』の解釈に関する諸問題 単著 平成二八年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 八二号 一一―一五頁
- 209 平成二七年度長崎大会シンポジウム報告 長崎の地域的特性と文学 共著(高山倫明・勝俣隆・若木太一・下野孝文・坂口至) 平成二八年七月 西日本国語国文学 三号 五八―九一頁(講演録) 住吉大社の御祭神は如何なる神様か―星と航海の関係から考える― 単著 平成二八年七月 住吉大社セミナー講演録 一―六七頁
- 210 松浦佐用姫伝説に関する一考察―篠原の弟日姫子から松浦佐用姫へ何故変わったか― 単著 平成二八年一月 国語と教育(長崎大学) 四一号
- 211 『小栗判官』と『しんとく丸』の構造的類似性について―暗黒世界からの帰還のモチーフを通して― 単著 平成二八年二月 神話・象徴・儀礼Ⅲ(篠田知和基編、楽瑯書院)
- 212 肥前国風土記の諸問題 単著 平成二九年三月 長崎大学教育学部紀要(人文科学) 八三号(予定)
- 213 近未来のAI時代における教育・研究のあり方を考える 単著 平成二九年三月 教育実践総合センター紀要(長崎大学) 一六号(予定)
- 214 学術雑誌・マスコミ等による拙論紹介  
東垂天文学会の機関紙『天界』七四七号(一九八七年八月号)で、拙論「天の八衢の解釈について」(猿田毘古神の解釈について)が、長谷川一郎氏によって、星座・猿田彦神の発見として紹介される。昭和六二年八月一日
- 2 『月刊天文ガイド』三三六〇号(三〇巻二号)で、藤井旭氏によっ

- て、猿田彦神がヒヤデス星団に相当するという拙論が紹介される。平成六年二月五日
- 3 朝日新聞文化欄で「記紀にみる古代人の宇宙観」(東日本版)「星が導く古代人の世界」(西日本版)の題で拙論が紹介される。(白石明彦氏) 平成九年三月二六日、平成九年四月八日
- 4 毎日新聞文化芸能欄『歴史万華鏡』で、「浦島太郎の出発」の題で、拙論が紹介される(岡本健一氏)。平成九年八月八日
- 5 毎日新聞『余録』で、日本の古代にも星座があったとする拙論が紹介される。平成一〇年七月六日
- 6 Mainichi Daily News の「Sidelight」の「余録」が英訳され、紹介される。平成一〇年七月七日
- 7 神社新報で、国立天文台渡部潤一氏により、星の話「ヒヤデス星団」の中で拙論が紹介される。平成一一年九月
- 8 朝日新聞文化欄で「古代日本にも星座はあった」(東日本版)「記紀の原像星座で探る」(西日本版)として、拙論が紹介される。(白石明彦氏) 平成一二年七月一五日、平成一二年七月一六日
- 9 サンデー毎日「いのちの本棚」で、拙著「星座で読み解く日本神話」が紹介される。(阿部秀子氏) 平成一二年八月
- 10 月刊天文(六六卷九号)のBOOKREVIEWで拙著『星座で読み解く日本神話』が紹介される。(肥沼茂夫氏) 平成一二年九月
- 11 国立天文台ニュース一五三号で、平成十七年度「科学記者のための天文学レクチャー」の紹介記事で、猿田毘古神と天宇受売命がおうし座とオリオン座に相当するという拙案が紹介される
- 12 (渡部潤一氏) 平成一七年四月一日号『月刊天文』第二二巻で、国立天文台での「科学記者のための天文学レクチャー」の紹介記事で、猿田毘古神と天宇受売命がおうし座とオリオン座に相当するという拙案が紹介される(青木満氏) 平成一八年五月
- 13 NBC(長崎放送)ラジオで、小学生のために「七夕」の解説を行う 平成一八年七月
- 14 NBC(長崎放送)テレビ「あつぷる」で、社会人向けに「七夕」の解説をした。平成一八年七月
- 15 『一日一話の星空案内 星空を見上げて365日』(誠文堂新光社)の一月八日で、猿田毘古がヒヤデス星団だという拙案が紹介される(藤井旭氏)。平成一九年一〇月
- 16 文化放送「吉田照美 ソコダイジナトコ」『武田鉄矢・今朝の三枚おろし』で、『星座で読み解く日本神話』が紹介される。平成二二年三月二二日から一週間
- 17 『口承文芸研究』三四号で、拙著『異郷訪問譚・来訪譚の研究』についての書評が行われる(斎藤英喜氏) 平成二三年三月
- 18 J-WAVE「KISS & HUG」KIDS REPORTER』で、シェリーさんと小学五年生川本裕也君の七夕に関する質問に電話で答える。平成二四年七月七日(土)
- 19 産経新聞文化欄で「現代に生きる神話 祭られる神々」の題でアメワカヒコに関する拙論が紹介される。(川西健士郎氏) 平成二六年一月二二日
- 20 「ふくしま星物語」の連載記事の中で、「星座に描かれた神」猿田彦」の題で、藤井旭氏によって、拙論が紹介される。(朝

日新聞福島県版、平成九年二月一五日付)

講演・シンポジウム等

- 1 国立天文台談話会における招待講演「日本神話の宇宙観」(国立天文台・三鷹) 平成六年五月
- 2 海を渡った絵巻物 在外研究報告:英・米・アイルランドの大学・図書館を巡って(長崎大学国語国文学会における講演) 平成一〇年十一月一五日
- 3 シンポジウム 海外の日本語教育・日本文学・日本文化の研究について~中国・韓国・ウクライナの場合~(平成一五年度長崎大学国語国文学会)における司会 平成一五年一二月七日
- 4 名古屋大学におけるシンポジウム「『十二類絵巻』とその周縁」異類物の展開」でのパネラー(名古屋大学大学院文学研究科 阿部泰郎・徳田和夫氏主催 パネラーは小松和彦氏、齋藤真麻理氏及び筆者) 平成一六年一二月二三日
- 5 国立天文台 平成一七年度第八回 科学記者のための天文学レクチャー「『記紀神話』の中の星座と神話」(国立天文台・三鷹) 平成一八年一月一三日
- 6 平成一八年度古事記学会大会(全国大会)における講演「七夕伝説の発生と変容」(長崎大学中部講堂) 平成一八年六月一七日
- 7 奈良絵本・絵巻国際会議における講演「お伽草子『七夕』(天稚彦物語)の諸問題」(広島・海の見える杜美術館) 平成一八年八月二五日
- 8 世界天文年全国同時七夕講演会参加講演会2009における講演「七夕の秘密」なぜ七夕は七月七日なのか……七夕を天文学(てんぶんがく)から読み解く」(於:長崎市科学館)長島雅裕氏の講演と共催 平成二一年七月四日(土)
- 9 全国同時七夕講演会2010における講演「中国の七夕・日本の七夕」(長崎大学教育学部)長島雅裕氏の講演と共催 平成二二年七月七日
- 10 シンポジウム「海外所蔵の絵巻・絵入本」(説話文学会二〇一〇年九月例会(一四六回)(於:学習院女子大学二号館三階二三六号教室)におけるコメンテーター 平成二二年一〇月
- 11 天文教育普及協会九州支部集会(佐世保市少年科学館)における記念講演「星座で読み解く日本神話」 平成二二年一二月二〇日(日)
- 12 シンポジウム「新学習指導要領の伝統的な言語文化の指導を巡って」小学校における場合を中心に」(平成二二年度長崎大学国語国文学会、長崎大学教育学部)におけるパネラー 平成二二年一二月四日(土)
- 13 全国同時七夕講演会2011における講演「七夕の行事はどう変わってきたのか。変遷の歴史を探る」(長崎大学サイエンス&テクノラボ) 長島雅裕氏・濱田剛氏の講演と共催 平成二三年七月六日
- 14 座談会「青来有一氏の文学を巡って」(平成二十三年度長崎大学国語国文学会)に於ける司会 平成二三年一二月三日(土)
- 15 全国同時七夕講演会2012における講演「天文学と文学からのアプローチ 室町時代の物語に描かれた七夕」御伽草子「七夕」の世界」(長崎大学サイエンス&テクノラボ二階セ

- ミナー室二) 長島雅裕氏・濱田剛氏の講演と共催 平成二四年七月四日(水)
- 16 島原市安中公民館における講演「日本神話の中の星座と神話」平成二四年一月二三日(金)
- 17 春日市星の館「大人の天文学講座」における講演「日本神話と星座神話」(於:白水大池公園 星の館 福岡県春日市下白水)平成二五年三月九日(土)
- 18 全国同時七夕講演会2013における講演「七夕伝説の謎を解く」於:長崎大学教育学部二一講義室 長島雅裕氏の講演と共催 平成二五年七月一〇日(水)
- 19 九附連国語部会 長崎大会における講演「古典を楽しく教え楽しく学ぶために」JALシテイホテル長崎 平成二六年七月二八日(月)
- 20 全国同時七夕講演会2014における講演「七夕伝説と羽衣伝説」長崎大学教育学四三番教室 長島雅裕氏の講演と共催 平成二六年八月四日(月)
- 21 シンポジウム「小学校・中学校における古典教育の在り方と、小中の連携をめぐって」におけるパネラー(平成二六年度長崎大学国語国文学会) 平成二六年一月二九日(土)
- 22 全国同時七夕講演会2015における講演「七夕と乞巧奠(きつこうでん)」長崎大学教育学部三一番教室 工藤哲洋氏・富塚明氏の講演と共催 平成二七年八月
- 23 西日本国語国文学会平成二七年度長崎大会(於:長崎大学教育学部三一番教室)のシンポジウム「長崎の地域的特性と文学」におけるパネラー「上代の文学」「中古・中世の文学」を担当
- 平成二七年九月一九日(土)
- 24 日本文体論学会108大会(於:長崎大学教育学部)における特別講演「小説家青来有一の叙述の特色と、その背後にあるもの」平成二七年一月二八日(土)
- 25 平成二七年度長崎大学国語国文学会における座談会「現職教員が在學生に語る教職の魅力について」(於:長崎大学教育学部)における司会 平成二七年一二月
- 26 平成二八年住吉大社セミナーにおける講演「住吉大社の御祭神は如何なる神様か」星と航海の関係から考える」(住吉大社、吉祥殿) 平成二八年三月二八日(月)
- 27 全国同時七夕講演会2016における講演「七夕伝説とは何か?…疑問にお答えします」(長崎大学生協文教食堂二階) 工藤哲洋氏・富塚明氏の講演と共催 生協の七夕祭りと共催 平成二八年七月七日(木)
- 28 平成二八年度長崎県高等学校教育研究会国語部会研究大会における講演「目まぐるしい社会の変化の中で、古典教育は如何にあるべきか。」「感動」を生み出す工夫と実践、並びに活用」(県立大村高校) 平成二八年一〇月二日(金)
- 研究発表(すべて単独)
- 1 「あめわかみこ」の本文について 昭和五十四年度京都大学国文学会、京都大学楽友会館 昭和五四年一月四日
- 2 「いぶせし」の語義について 昭和五十七年度国語学会大会、香川大学教育学部 昭和五七年一〇月二四日
- 3 天の八衢の解釈について 昭和五十九年度古事記学会大会、駒

- 澤大学 昭和五九年六月二三日
- 4 萬葉集卷九、一七三八番歌の「鑑」をめぐる 昭和五十九年度萬葉学会全国大会、松山市立子規記念博物館 昭和五九年一月二八日
- 5 猿田毘古神の解釈について 昭和六十年古事記学会大会 甲南大学 昭和六〇年六月二二日
- 6 中世小説『七夕』の本文と挿絵について 昭和六十三年長崎大学国語国文学会、長崎大学教育学部 昭和六三年一月二三日
- 7 『徒然草』「むまのきつ云々」の謎について 平成元年度(第六十六回)中世文学会春季大会、日本女子大学 平成元年五月二八日
- 8 天の御柱巡りの神話的解釈 平成五年度長崎大学国語国文学会、長崎大学教育学部 平成五年一月二三日
- 9 伊邪那岐命の禊祓の段における時量師神の解釈について 平成八年度古事記学会大会、皇學館大学 平成八年六月一五日
- 10 万葉集における天界に関わる表現について 第四十九回萬葉学会全国大会、東京大学教養学部 平成八年一〇月六日
- 11 中世小説の挿絵と本文の関係について 平成九年度長崎大学国語国文学会、長崎大学教育学部 平成九年一二月七日
- 12 記紀神話の天宇受売命像について 平成十年度上代文学会大会、常葉学園短大 平成一〇年五月一七日
- 13 国見等の国土称賛表現と国土創生神話の関わり 平成一二年度上代文学会大会 長野県短期大学講堂 平成一二年度五月二八日
- 14 中世小説に於ける竜蛇の描写について―先行の文学作品を視野に入れて― 平成一三年度長崎大学国語国文学会 長崎大学教育学部 平成一三年一二月九日
- 15 古事記の成立と構造―国生み神話と国作り神話を巡って― 平成一五年度古事記学会五〇周年記念大会 國學院大學 平成一五年六月二二日
- 16 語彙史を中心として見た「うとうやすかた伝承」の諸問題 第八十五回国語語彙史研究会 同志社女子大学今出川学舎 平成一九年四月二八日
- 17 中世小説『七夕』の本文と挿絵について The 18th EAJRS (European Association of Japanese Resource Specialists) Annual Conference (Rome, Instituto Giapponese di Cultura) ローマ・イタリア日本文化会館 平成一九年九月一日～二二日
- 18 アメノウズメは、天石屋戸神話と天孫降臨神話で、なぜ同じ姿態で描かれるのか? 比較神話学シンポジウム、南山大学棟一階会議室(名古屋) 平成二〇年一月五日
- 19 憧憬する漢風の対抗としての和風の文学、平成二二年度長崎大学国語国文学会、長崎大学教育学部 平成二二年一二月五日
- 20 古事記国生み神話における長崎の位置と日本・中国「値(ち)嘉島(かのしま)(五島列島) 両児島(ふたごのしま)(男女群島)」を中心に、日中文化交流広領域シンポジウム―歴史・文学・言語・思想の視点から―、長崎大学環境科学部 平成二二年一〇月七日(木)
- 21 彗星と箒をめぐる諸問題 比較神話学シンポジウム、奈良県新公会堂(奈良市春日町) 平成二五年一二月二三日(月)



- 22 三輪山伝説の起源を探る GRMC千葉大会 二〇一四年三月  
平成二六年三月二八日
- 23 言葉遊びを利用した古典教育・古典研究―万葉集の戯書を中心  
に―平成二六年度長崎大学国語国文学会 平成二六年一月二  
九日
- 1 科学研究費補助金・内地研究・在外研究等  
文部省科学研究費補助金奨励研究(A) 中世小説『あめわか  
みこ』の天稚系と七夕系に於ける、本文並びに内容に関する研  
究 一九八五年度(昭和六〇) 配分総額三〇〇,〇〇〇円
- 2 文部省科学研究費補助金奨励研究(A) 中世小説『あめわか  
みこ』の本文の系統及び『あめわかみこ』像の変遷に関する研  
究 一九八六年度(昭和六一) 配分総額三〇〇,〇〇〇円
- 3 文部省科学研究費補助金奨励研究(A) 中世小説『あめわか  
みこ』の諸本の系統関係、成立経緯、並びに文学的意義に関す  
る研究 一九八七年度(昭和六二) 配分総額三五〇,〇〇〇円
- 4 文部省科学研究費補助金一般研究(C) (二年目より基盤研究(C)  
(2)に名称変更) 中世小説と散逸物語の関連についての研  
究(『風葉和歌集』所蔵の物語を中心として) 一九九五年度  
〜一九九七年度(平成七〜平成九) 配分総額一,二〇〇,〇〇  
〇円
- 5 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C) (2) 中世小  
説の挿絵と本文の関連についての研究 基盤研究(C) 一九  
九八年度〜二〇〇一年度(平成一〇〜平成一三) 配分総額一,  
九〇〇,〇〇〇円
- 6 日本学術振興会科学研究費補助金(C) 中世小説の発生と展  
開、影響についての研究―本文と挿絵の両面― 基盤研究(C)  
二〇〇四年度〜二〇〇七年度(平成一六〜平成一九) 配分総額  
三,七七〇,〇〇〇円
- 7 日本学術振興会科学研究費補助金(C) 中世小説の生成発展  
過程の研究―伝本・説話・挿絵を中心に― 基盤研究(C)  
二〇〇九年度〜二〇一三年度(平成二一〜平成二五) 配分総額  
四,〇三〇,〇〇〇円
- 8 文部省内地研究 東京大学文学部国文学研究室 鈴木日出男先  
生の受け入れ 平成七年五月から一〇月
- 9 文部省在外研究 アメリカ・アイルランド・イギリスの大学・  
図書館所蔵の中世小説の伝本調査 平成一〇年八月から九月
- 10 長崎大学教育学部リフレッシュ研修 東京大学人文社会科学研  
究科国文学研究室 多田一臣先生の受け入れ 平成二〇年五月  
から九月
- 1 データベース関係  
「長崎大学付属図書館 幕末・明治期日本古写真メタデータ・  
データベース」における古写真の解説(箱根・小田原地域)  
平成一八年三月
- 2 國學院大学のデジタル・ミュージアムの一環としての『万葉集  
神事語辞典』(辰巳 正明氏・城崎 陽子氏監修) オンライン  
版の一部項目解説 平成二二年九月



## 中高などの出前授業・指導助言等

- 1 附属中学校での古典授業〔平成十七年から二十一年の五か年に亘り、「自己探求」「学問探究」のテーマで、日本の古典文学(時間の切れ目と異類の出現、季節感、星や虹、不老不死など)や日本語の特性(謎々・言葉遊び)などについての出前授業を行う。〕
- 2 高大連携事業 県立杵岐高校での出前授業(平成二十二年七月三日)〔星の描かれた日本の神話・伝説・物語〕
- 3 長崎地域発見大学、長崎歴史文化博物館(平成二十三年一月一日(金))「古事記から杵岐を読むー国生み神話を中心にー」
- 4 高大連携事業 県立長崎南高校での出前授業(平成二十四年一月四日)「星座と日本の神話・伝説・物語の関係について」
- 5 高大連携事業 県立島原高校での出前授業(平成二十六年一〇月三十一日)「日本神話の謎を解く」
- 6 平成二六年度長崎大学教育学部附属小学校・中学校教育研究発表会における指導助言(平成二十七年一月)
- 7 平成二七年度長崎大学教育学部附属小学校・中学校教育研究発表会における指導助言(平成二八年二月)
- 8 教員免許認定講習の講師(長崎市)
- 9 教員免許更新講習の講師(長崎市、佐世保市、大村市、島原市、上五島町)

## 非常勤関係

新居浜市万葉研究会講師  
新居浜市十全看護専門学校非常勤講師

勝俣…略歴・著作目録

長崎大学公開講座講師

長崎市北公民館講師

大村市国立大村病院看護専門学校非常勤講師

長崎市中央公民館学習サークル さざんか 講師

放送大学非常勤講師

長崎市医師会看護専門学校非常勤講師

島原市医師会看護専門学校非常勤講師

NBC学園 文学・教養コース非常勤講師

平山茶道会館講師

## 外部委員など

国文学研究資料館特別調査員・調査員・研究員

古事記学会理事・西日本国語国文学会地区委員・長崎大学国語国文学会会長・科学研究費審査員・九州地区リポジトリ論文査読委員・

名勝「三井楽(みみらくのしま)」保存活用計画策定委員会委員(五

島市教育委員会生涯学習課担当)